

Defecation Update.13 便通異常の治療プラクティス

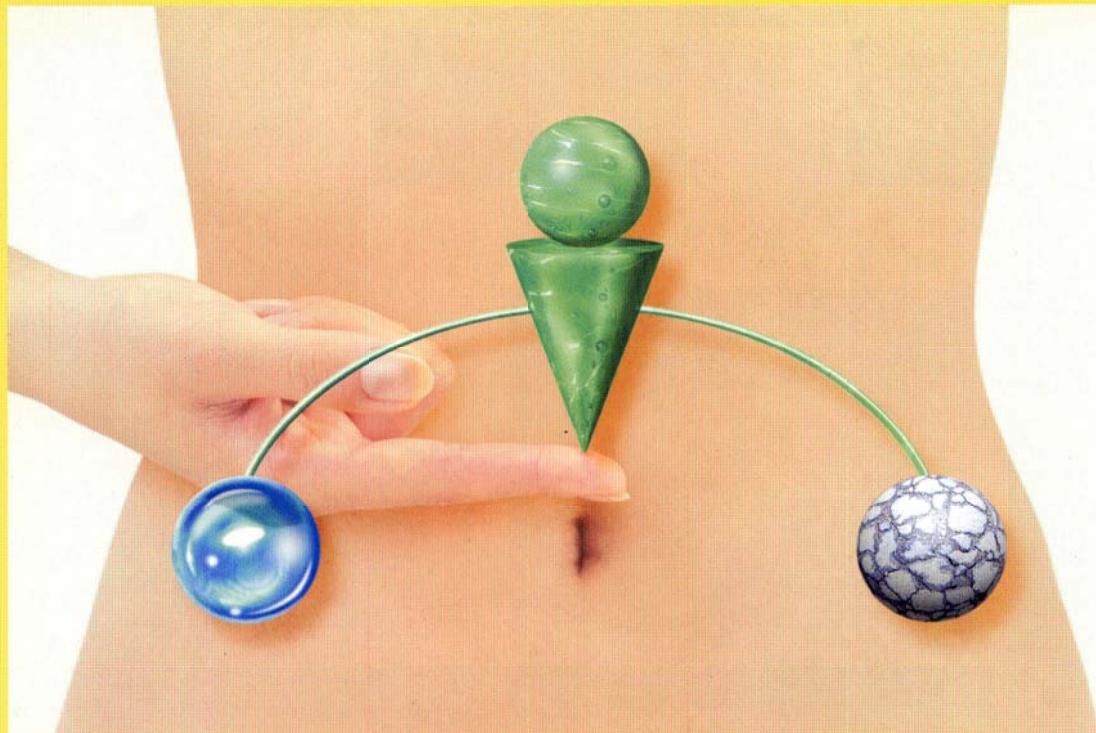
監修●医療法人健心会 えんどうクリニック 院長 遠藤剛先生

Case 1

腹痛・下痢を主体とする
下痢型IBSにポリフルが
著効した1例

Case 2

腹痛・腹部膨満感を伴う
交替型IBSにポリフルが
著効した1例



日本標準商品分類番号
872399

過敏性腸症候群治療剤

薬価基準収載
指定医薬品

ポリフル[®]錠500mg・細粒

〈ポリカルボフィルカルシウム製剤〉Polyful[®] Tablets 500mg·Fine Granules

■禁忌(次の患者には投与しないこと)

- (1) 急性腹部疾患(虫垂炎、腸出血、潰瘍性結腸炎等)の患者[症状を悪化させるおそれがある。]
- (2) 術後イレウス等の胃腸閉塞を引き起こすおそれのある患者[症状を悪化させるおそれがある。]
- (3) 高カルシウム血症の患者[高カルシウム血症を助長するおそれがある。]
- (4) 腎結石のある患者[腎結石を助長するおそれがある。]
- (5) 腎不全(軽度及び透析中を除く)のある患者[組織への石灰沈着を助長するおそれがある。]
- (6) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

* 効能・効果・用法・用量・禁忌を含む使用上の注意などの詳細につきましては、ドラッグ・インフォメーションをご参照下さい。

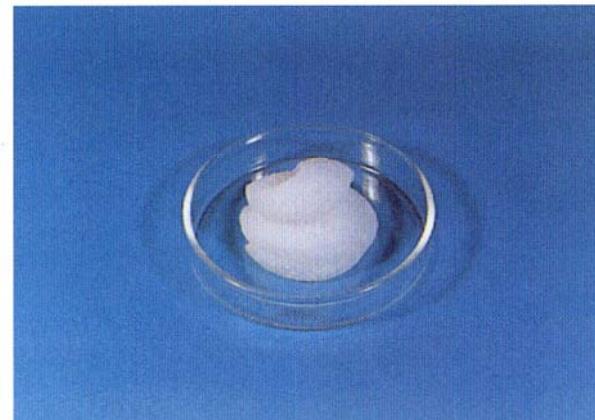
 Abbott
A Promise for Life



●・ポリフル[®]の作用機序

ポリフル[®]は腸管内で水分を吸収し、膨潤・ゲル化することによって、便の水分バランスを調整して、便性状を正常化するため、便秘にも下痢にも効果が期待できる薬剤です。有効成分であるポリカルボフィルは消化管から吸収されず、血中や消化管以外には移行しません。

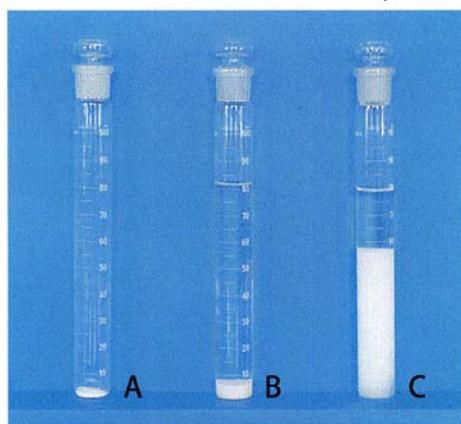
■吸水ゲルの外観



ポリカルボフィル(2%)*

*:ポリカルボフィルは無色のため、酸化チタンで着色し、撮影した。

■ポリカルボフィルカルシウムのpH-膨潤特性



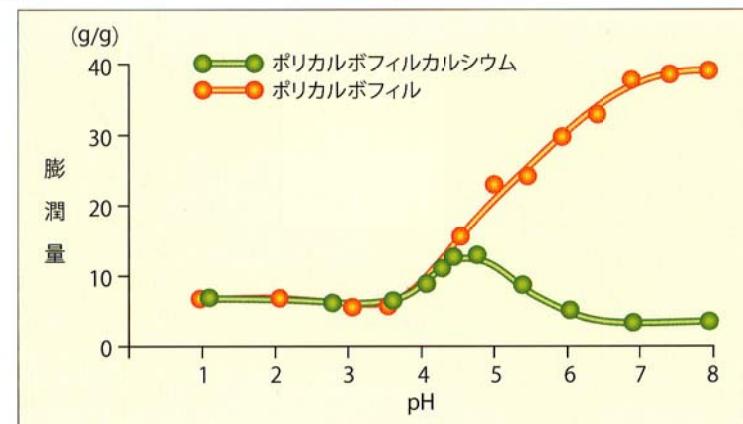
A : ポリカルボフィルカルシウム1g

B* : ポリカルボフィルカルシウム1g+人工胃液(pH1.2)

C* : ポリカルボフィルカルシウム1g+人工腸液(pH6.8)

(Bの上清を取り除いた後人工腸液を加えたもの)

*: ポリカルボフィルは無色のため、酸化チタンで着色し、撮影した。



実験方法 |

ポリカルボフィルカルシウム及び0.1mol/L塩酸試液で脱カルシウム処理したポリカルボフィルの各pHの緩衝液における膨潤量を測定した。

参考文献：アボット ジャパン社内資料

●・ポリフル[®]の副作用

■主な副作用症状の発現頻度^{注)}(社内集計)

副作用の種類	発現件数(%)		
	便秘状態(29件/261例)	下痢状態(41件/490例)	合計(70件/751例)
嘔気・嘔吐	5(1.92)	8(1.63)	13(1.73)
発疹・皮疹	4(1.53)	6(1.22)	10(1.33)
口渴	8(3.07)	1(0.20)	9(1.20)
浮腫・腫脹	3(1.15)	3(0.61)	6(0.80)
そう痒感・かゆみ	0(0)	5(1.02)	5(0.67)
便秘	0(0)	4(0.82)	4(0.53)
下痢	2(0.77)	1(0.20)	3(0.40)
腹部膨満感	1(0.38)	1(0.20)	2(0.27)

注)安全性評価対象例には、承認された用量以外(最小0.3g/日、最大6.0g/日)を投与した症状も含む。

- 紹介した症例は臨床症例の一部を紹介したもので、全ての症例が同様な結果を示すわけではありません。
- 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意、用法・用量に関する使用上の注意等についてはドラッグ

症例紹介

Case

1

腹痛・下痢を主体とする下痢型IBSにポリフルが著効した1例

●患者背景

症 例：17歳、男性

主 訴：腹痛、下痢

現病歴：X年10月に腹痛、下痢を主訴に当院を受診。高校入学後6ヵ月頃より腹痛、下痢が出現するようになり、近医にて乳酸菌製剤と頓用にて抗コリン剤を処方されていたが、症状が改善しなかったとのことで来院した。

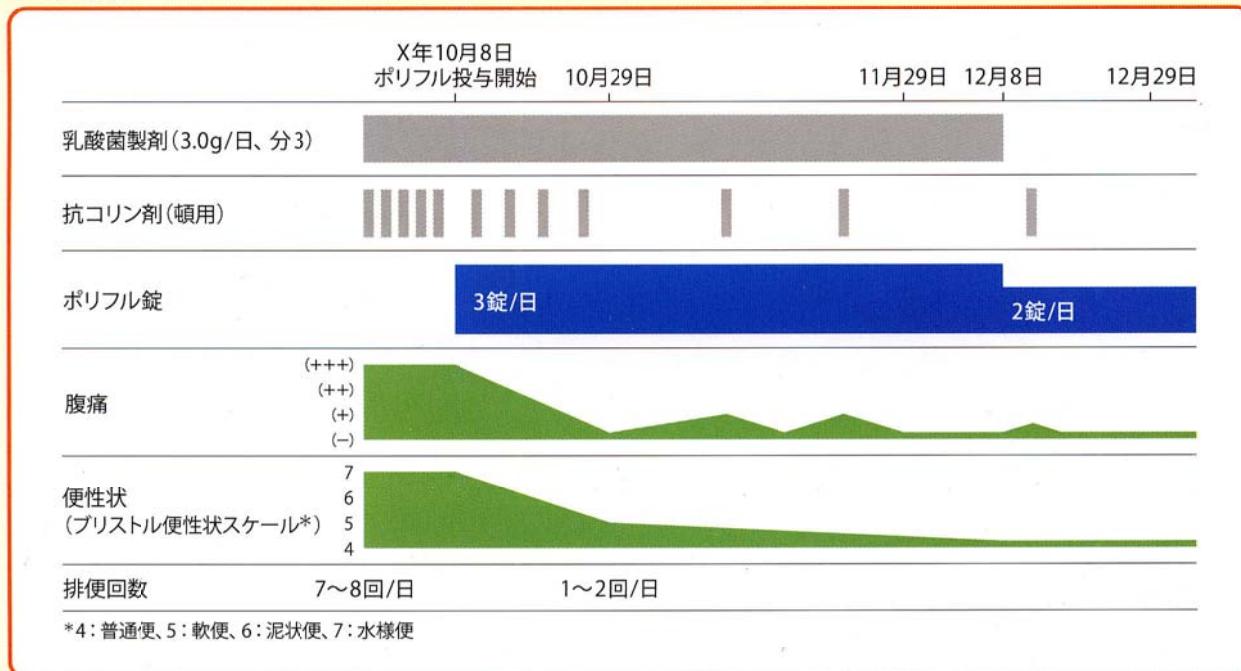
●診断

前医では投薬治療のみであったため、念のため大腸内視鏡検査および胃内視鏡検査を施行したが、器質的疾患は認められなかった。また、腹部単純X線写真ではガス像が多く、固形便は少なかった。排便回数は7～8回/日と多く、病歴から下痢型IBSと診断した。

●治療経過

乳酸菌製剤の服用は継続させながら、母親同席で当院の栄養士による食事指導をした上で、ポリフル錠（3錠/日、分3）の投与を開始した。投与開始から約3週間後には便性状は水様便から軟便となり、排便回数、腹痛とも1～2回/日まで改善した。実はIBS症状のために学校でいじめにあい、ノイローゼになってしまい、自主退学をしていたことを知り、愕然とした。2ヵ月後には、便性状も普通便が出るまでに改善し、ほぼ普通の生活、いわゆる快食・快眠・快便が得られるようになり、別の学校へ復学することができた。その後、ポリフル錠を2錠/日に減量し、乳酸菌製剤も処方することなく現在に至っている。

●経過図



ラック・インフォメーションをご参照ください。

Case

2

腹痛・腹部膨満感を伴う交替型IBSにポリフルが著効した1例

●患者背景

症 例：22歳、女性

主 訴：ストレスによる下痢、便秘を伴う腹痛

現病歴：看護学校を卒業後、外科病棟に配属された。その頃から、仕事中もさることながら、朝起きると同時に腹痛、下痢が出現し、時に便秘で腹部が張り、仕事がままならない状態が続くとして、X年10月2日当院を受診した。

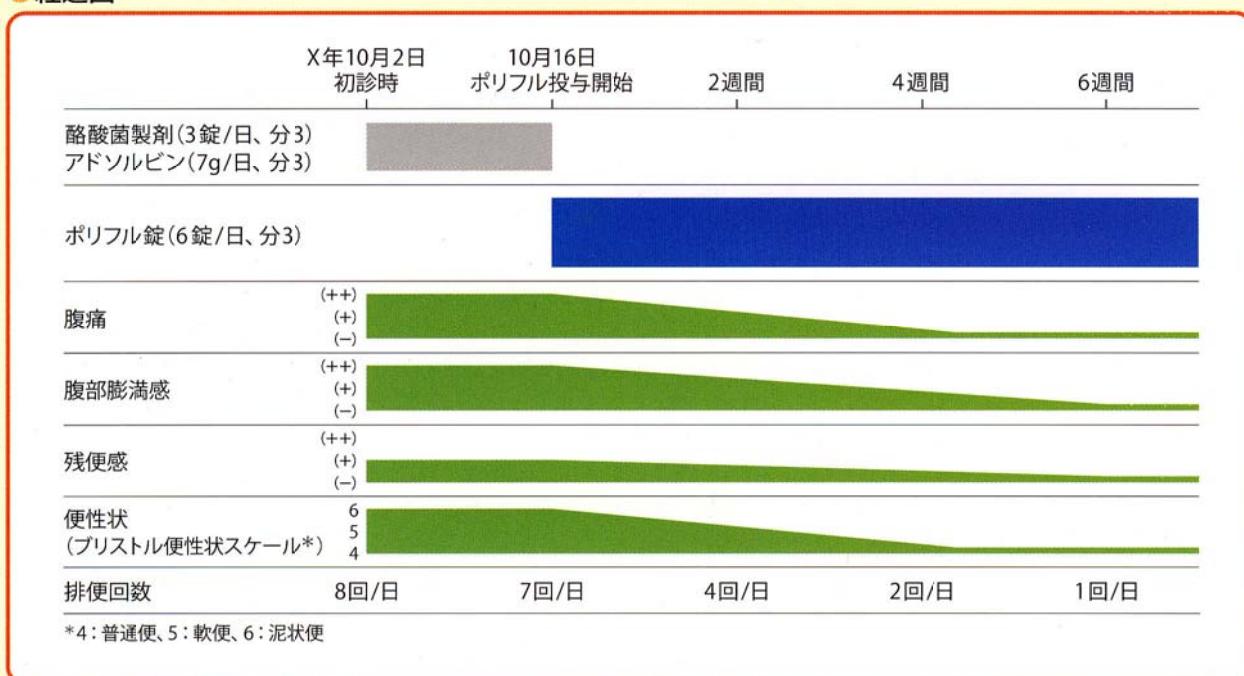
●診断

大腸内視鏡検査では器質的疾患は認めなかった。問診より、排便によって症状は軽快するとのことであったので、交替型IBSと診断した。

●治療経過

受診時の便性状が下痢優位であったため、まず始めに酪酸菌製剤(3錠/日、分3)とアドソルビン(7g/日、分3)を投与した。投与開始から2週間経過するも症状が改善しないため、ポリフル錠(6錠/日、分3)へと切り替えたところ、2週間後には便性状は泥状便から軟便となり、排便回数もやや改善がみられた。4週間後には普通便となり、排便回数も1日2回にまで減少した。さらに、腹痛、下痢も消失し、6週間後には排便回数も1日1回まで改善し、残便感、腹部膨満感もほぼ消失した。仕事も順調となり、ポリフル錠を継続して現在に至っている。

●経過図



わたしの処方箋

ポリフル処方のコツ

過敏性腸症候群(IBS)診断と治療のポイント

Point 1 アンケートを活用した十分な問診

プライマリケアにおけるIBSの診断では、まず十分な問診を行うとともに、基本的な検査によって器質的な異常所見がないことを確認することが重要となります。当院では腹部症状や便通異常といった消化器症状を訴える患者に対しては、問診時にアンケート(図)を活用しながら患者の訴えを聞き、診断を行っています。アンケートは非常に簡易なため、多忙な診療においても簡単に利用できるメリットがあります。

Point 2 患者-医師間の信頼関係の構築

IBSの治療において最も大切なのは、患者と医師間に信頼関係を構築することです。IBSは、以前は「神経質」や「原因不明」などとして片付けられがちでしたが、適正に治療することが必要な疾患であり、治療を受ければ予後は良好であることを伝え、患者の不安を取り除くことが大切です。その上で食事や生活習慣の改善を指導するとともに、薬物療法を行います。

Point 3 食事療法と生活習慣の改善

IBSの症状改善には、規則正しく偏りのない食生活、十分な睡眠、適度な運動、排便習慣をつけることが重要であるということを、患者に理解してもらう必要があります。食事については、下痢型IBSでは、脂肪や不溶性食物繊維の摂取は腸管運動を促進し下痢を悪化させるため、避けるように指導します。逆に便秘型IBSでは、積極的に食物繊維を摂取することを勧めます。また、精神的ストレスは症状悪化の大きな要因であるため、できるだけ時間的にゆとりをもった、リラックスできる環境作りを心がけるよう指導します。

Point 4 下痢・便秘患者に対する積極的な診断・治療が患者のQOLを改善

下痢・便秘で悩んでいる患者は意外に多く、当院において、なんらかの便通異常・腹部症状のある患者を対象に行った調査では、約15%がIBSと診断され、プライマリケアにおいても高頻度にIBS患者がみられることがわかりました。しかし、下痢・便秘患者は市販薬により自己治療していることも多く、誤った治療は重症化を招き、治療が困難になります。日常診療において、積極的にIBSの診断を行い、早期に治療を開始することが患者のQOL改善にもつながります。

●IBS治療におけるポリフル使用のポイント

ポリフルは、腸管内で水分を吸収し、膨潤・ゲル化することで便性状を正常化し、下痢・便秘両方に効果が期待できる薬剤で、IBS治療ガイドラインにおいて第一選択として推奨されています。また、消化管から吸収されないので安全性も高く、高齢者や長期投与にも安心して使用できるという利点があります。

ポリフルをベースとして、症状にあわせて下痢型IBSでは整腸剤、便秘型IBSでは、軽症の場合は酸化マグネシウム、中等症・重症の場合は下剤を併用します。

ポリフルは効果が実感できるまである程度時間がかかること、また服用初期に腹部膨満感を感じることがあっても、これは効果発現の徴候であることを患者に説明し、少なくとも2週間以上服用するよう指導します。また、ポリフルの最大の特性は便性状を正常にすることで、特に硬い便性状を軟らかい普通便に変化させるという、従来薬ではあじわえない快便感が得られるというメリットも伝えるようにしています。

遠藤 剛 先生

医療法人健心会
えんどうクリニック 院長



図 問診時のアンケート内容

- | | |
|-------|--|
| 質問1 | <input type="checkbox"/> 下痢もしくは便秘が続いている(もしくは繰り返す) |
| 質問2 | <input type="checkbox"/> お腹が痛い
<input type="checkbox"/> お腹が張っている
<input type="checkbox"/> お腹がゴロゴロ鳴る
<input type="checkbox"/> ガスがたまつた感じがする
上記の症状が1つ以上ある |
| 質問3~5 | <input type="checkbox"/> 便に血が混じことがある(痔出血以外で)
<input type="checkbox"/> 最近やせてきた(体重が減少してきた)
<input type="checkbox"/> 夜中にお腹が痛くて目覚めることがある |
| 質問6 | <input type="checkbox"/> ストレスを強く感じると下痢や便秘がよりひどくなる |